

1.川西粘土層と舞子貝層







図23 川西粘土層と舞子貝層 (2万5千分の1地形図「須磨」を縮小)

この地図は,国土地理院長の承認を得て,同院発行の5万分 の1地形図及び2万5千分の1地形図を複製したものである (承認番号 平14総複,第389号)

ところで、この播磨平野にある海成の粘土層はいままでに述べた高塚山粘土層だけではあり ません。JR朝霧(あさぎり)駅ふきんに分布する川西粘土層、西区岩岡町に分布する赤坂(あ かさか)粘土層などがあります。

これらの海成の粘土層と高塚山粘土層との関係はどうなっているのでしょうか。同じ地層な のか、違う地層なのか、違うとしたらどちらが古いのか、という問題があります。

この三枚の海成の地層のうち一番古いのは川西粘土層で、つぎが高塚山粘土層、一番新しい のが赤坂粘土層であるというのが、私たちの結論です。

これまで川西粘土層はメタセコイアの化石をふくむ地層であると考えられていた地層です。

メタセコイアの化石は今から90万年より古い地層からはでてくるが、それ以降の地層からは でてこないということがわかっています。ですから、川西粘土層はおよそ100万年前の地層だと 思われていました。

ところが、よく調べてみると川西粘土層にはメタセコイアの化石はふくまれておらず、メタ セコイアの入っている地層(明石累層(あかしるいそう))を不整合でおおう地層であること がわかってきました。

川西粘土層についてはもう一つ重要な発見がありました。川西粘土層の近くにたくさんの貝 化石などをふくむ舞子貝層は高塚山貝層より古い時代のものではあるが、それほど大きな時代 のへだたりはないと考えられていました。

そして舞子貝層と川西粘土層の関係が問題になっていました。一つは整合であるという考 え、もう一つは舞子貝層は100万年前の川西粘土層がけずられたあと、そこにへばりつくよ うにしてたまった新しい地層であるという考えがありました。

ところが、西舞子から朝霧にぬける道路工事によって舞子貝層は川西粘土層の下にある地層 であることが確かめられたのです。

すなわち、「舞子貝層は川西粘土層を不整合でおおうといういままでの第二の考えは、「川 西粘土層は舞子貝層を整合でおおう」という事実によってくつがえされたのです。

川西粘土層は舞子具層の上に重なる地層だった

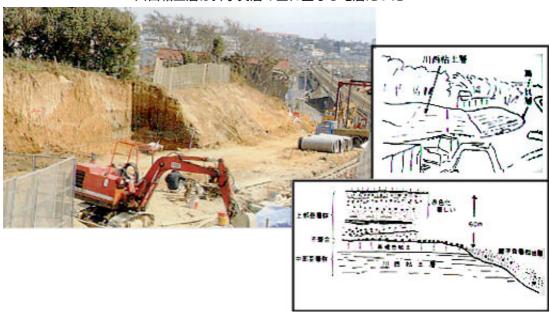


図24 従来はこのように考えられていた (藤田・前田1984)



神戸の自然シリーズ 17 神戸の地層を読む2